

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人 恵寿会		
事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月31日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/inndex.php		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームグリーンヒルみふねでは、ベテラン職員が多く、利用者の気持ちに寄り添い、親身になって考えることが出来る。本人の訴えや希望など、聞き漏らさずに、スタッフ全員に周知し、出来るだけ本人の意向に添ったことを実現している。そのバイタリティー溢れるパワーは素晴らしい。家族にも、日頃の様子を伝えリスクが伴うようなことでも、しっかりと伝えることが出来る。家族からの信頼もある。また、食事面では、日頃から、メニューや栄養面には力を入れており自慢の一つでもあります。特に、運営推進会議や誕生会での料理は、利用者、家族や行政、地域の方が写真に写していけるほどの腕前である。生け花や置物などを使うなど洒落た演出ができています。料亭のような雰囲気や漂う空間が何ともいえない。そのような環境を活かし、自由に安心して快適なグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本地震の影響に1号館は改修中という現状とともに、101歳を最高齢に100歳2名という中で、“今を楽しく”とするスローガンを基に、この1年外に向かった活動は入居者の生活に生きる力を与えている。まもなく100歳を迎える入居者も自宅近くで行われる街中ギャラリーに出かけては昔なじみの住民から声を掛けられる等このホームならではの支援が継続されている。ホーム長の変更という変革期にはあるが、職員の持つ高いスキルが、食事支援や極力車いすを使用せず2名体制での介助などに表れている。地域の中で確固たる基盤が築かれた中で、仮設住宅への配食サービスや園児たちとの焼き芋大会等世代を超えた交流や、隣保班の一員としての活動とともに地域の祭りや行事等企画・参画する等この地に大きな期待が寄せられている。地震という難局に法人の持つハードや職員が一致協力し合い、重度化する(平均介護度3.8)中でも主体的な入居者の生活ぶりに敬意を表したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年3月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生きる「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作りの基本として毎日の朝礼にて唱和している。また、勉強会などでは、毎回、スタッフに周知している。	理念はホーム内への掲示や唱和を行うことで意識を持ったケアに努めている。毎年理念を具現化したスローガンを立てており、29年度は“今を楽しく…”をもとに生活の場で趣味・嗜好を把握し、職員の持つスキル等をマッチングさせながら、外に出かけた1年である。毎月の勉強会や、調理をしながらの話し合い等理念を想起しながら検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(どんどや、校区敬老会、木倉祭り、青少年育成会の手伝い)に参加し自治会に加入。組長として回覧配布、会議、区役に参加、連絡調整を担っている。	地域活動に精力的に関わるホームは、自治会に加入し回覧板配布や清掃活動、リサイクル当番等組長としての役割を担っている。法人内でチームを募り祭りに参加したり、隣保班の方々との劇には練習からの参加、青少年育成会や婦人会からの要請に出向いたり、サロンや仮設住宅の支援等に関わっている。更に、「春は御船でひな祭り」ではボランティアとして関わる等地域とともにあるホームが形成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御船町の各地区のサロン活動や仮設の支援への活動も、グループホームから参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動や利用者様の事例検討をパワーポイントにて分かりやすくし、見てもらっている。また、事故や苦情があったことも会議で報告している。	運営推進会議の意義を的確に捉え、ホームの行動目的を示し定期的に開催している。ホームの近況及び活動内容の報告や質疑応答、ランチミーティングや新にできた同法人のグループホーム見学等創意工夫している。更に事例検討やホームの方向性等の説明、苦情・事故も開示しており、透明性のある運営体制であることが表れている。	メンバー構成や会議の内容も充実している。今後も質疑応答や発言内容を明確にさせていただき、ケアサービスに反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故・苦情・感染症発生した際にも役場に報告し、助言を仰いでいる。また、経過も定期的に報告している。	運営推進会議に介護保険課・社協からの参加があり、ホームからの実情発信とともに、行政も必要な情報を提供している。行政に介護認定更新手続きに向く等機会を捉えてホームの現状を報告している。また、介護相談員の受入や地域包括支援センターが主になっている傾聴ボランティア等を活用し、ケアサービスに反映させている。法人として次期高齢者福祉計画策定に携わるなど、行政との良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落の恐れがある方に対しては、畳に寝て頂くなど身体拘束のないケアを実施している。法人、全職員にアンケートを取り、身体拘束についての知識がどこまであるのかを調査している。	入居時に身体拘束を行わない事でのリスク（転倒・転落等）を説明している。全体勉強会や身体拘束防止・虐待防止委員会により事例検討、職員向けアンケート調査を実施しており、全職員が拘束による弊害を正しく認識している。更に、「自分がされて嫌なことは、しない、言わない、やらせない」のポスター掲示や、庭にオリーブ（木安らぎを意味する）を植栽するなど、意識の高揚と共有を図っている。入居者の外に出たいという状況を把握し、所在確認の徹底や外に出てもらうことで落ち着いてもらう等自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止・虐待防止委員会が主になり、言葉遣いなど事例を通して皆で学んでいる。また、身体にキズやアザなどあった場合には、きちんと原因を追究する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの社会福祉士にて、勉強会を実施している。質疑応答を詳しく教えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族への十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。また、リスクの同意書も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置している。ご家族が来られたら、話しやすいように話して頂くような雰囲気になっている。最近のご家族は、何事もはっきりと言って下さるので意見を聞く事ができる。	玄関先の意見箱や、家族の面会時や家族会、月1回の家族への手紙により状況を発信し、意見や相談等を伺うようにしている。家族には、遠慮されずに何でも話していただくような雰囲気づくりに努めており、出された苦情等苦情相談簿に残し、全員で精化することでサービスに反映させている。運営推進会議も問題提起の場としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やイベントの話し合いには参加して、職員の意見を聞き出来るだけ実施できるようにアドバイスをしている。	職員からの意見や提案等は、毎月の勉強会や日々のミニ会議の中で聞き取りしている。職員のやりがいを実現できる環境にあるホームは、職員はしたい事に前向きであり、ホーム長は得意分野を生かしたケアにつなげたいと随時相談に応じている。また、職員の体調管理やストレスケアのため、30分の休憩時間を設け、心身をリセットして午後のケアに入る等働きやすい環境としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。又、年度の終わりに、それぞれの職員に次年度に向けた目標や新しく取り組んでみたいことなどアンケートを取り、やりがいを持って仕事に臨めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	御船町、又は他の研修会には、多くの職員に参加を促している。また、参加し、研修報告書を提出してもらい、他施設の取り組みを学び、良い刺激になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの上益城ブロック会議や、その他、認知症実践者研修や、アクティビティインストラクター当の研修を受け、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に要望を聞くことにより、自宅により近いような暮らしを続けて頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族にケアマネと事前に訪問し、困っていることを、不安、要望など十分に傾聴、安心して頂ける対応を行い信頼ある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にの希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め、検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していくなかでも、同じ生活者として心を寄せ合い、日常生活の様々なことを共に行うことで、関係性を深めていきたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、家族会、誕生会など様々な場面で、ご家族の参加を呼びかけ、担当職員からは手紙で、近況報告をし、ご面会時には、様子をお知らせしたり、自由に面会できるように雰囲気の良いグループホームであるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人の訪問がある。その関係を大切にしている。誕生会の時に家族や親戚、友人も案内し、関係を大切にしている。	夫婦や姉妹での入居や、街中ギャラリーの催し物に出かけては近所の方たちと出会う等馴染みの関係を継続している。毎日訪問される家族や、居室で家族と誕生日を祝う方や、墓参りやご主人の米寿のお祝いでの帰宅、昔から買い物に出かけていた洋服屋までのドライブなど、家族の協力も得ながら支援している。また、入居者同士の和やかな会話や職員との関係も馴染みの関係が築かれていることが表れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何時でも相談して良いとお伝えしている。時々、「懐かしくて寄りました」と来られる方もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	勉強会やミーティングで、一人ひとりの過ごし方や様子など皆で検討している。その後、家族にも伝えている。	入居者の一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日々の会話での把握や表情等から推察している。発語困難等把握が難しい場合は、話し合いながら本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中で一人一人の生活歴や馴染の暮らし方を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向に添ったプランを作成している。	本人や家族の意向は、日々の生活や会話の中から把握し、プランに反映するようになっている。また、課題整理総括表を活用し必要な支援を検討し、モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直し再作成している。職員の病気発見により、主治医との相談や今後を検討し、プランを見直す等現状に即したプランが作成されている。転倒予防や楽しい生活、アクティビティの充実等理念も踏まえたプランニングである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別にケース記録を記入しているが、利用者の言動の中で、注意すべき点があれば、申し送りノートに記載し、状態把握に努めている。又、状況の変化や報告事項などの情報を共有、観察し、必要時、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域住民として、運営推進会議の中で行政や、区長、民生委員さんと、防災について話し合ったり、地域の保育園、小学校との世代間交流を通して、グループホームの事を理解して頂いたり、消防避難訓練に隣保の方も参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベント(若い人たちが集まる場所)に参加している。若い人たちと触れ合ったりすることを大変喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、往診、他の専門病院が必要な時には、紹介状を発行して頂いたり、緊急時には、医師の指示にて救急搬送を行うなどを行い支援している。	協力医療機関による月2回の往診や専門医(精神科や眼科等)への受診が必要な場合には主治医の指示のもと適切な医療を支援している。もともとのかかりつけ医から、夜間も往診される協力医へ変更されたケースもあり、看護職員3名体制であることは介護職員にも心強く、日々の健康管理の徹底により異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状況に少しでも変化がある場合は、看護職員が、主治医に報告し、指示を仰ぎ介護職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所機関が1か月と規定されており、安心して治療ができるよう情報交換を行い早期退院に向けて、主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業者で出来る事を家族に説明し方針を共有している。施設にて看取りを希望される利用者の場合は、急変時には家族へ連絡し相談の上、対応を行っている。	契約時の説明とともに、段階的に家族に今後の考えを聞き取り、主治医からの指示により終末期ケアの同意書を交わす体制としている。家族の思いも変動する事も踏まえながら、随時話し合いを持つ等、開設当初から15年という入居者の終の住処としての思いを実現させたいとしている。また、これまでも終末期ケアの経験もあるが、ターミナルケアの研修も行われている。	主治医及び家族との関係性が構築し、看取りケアを行うスキルは十分に備わっている。緊急時対応の研修会等も行われており、101歳を最高齢として100歳2名という現状にあり、転倒防止等寄り添いながら真摯にケアに当たられていることに敬意を表したい。入居者がこのホームで少しでも長く生活されるよう、今後も家族とともに支援いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討している。また、勉強会では、急変時の対応の研修を行い知識や技術を全員で身に付けるよう努力している。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や、年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。しかし、まだ地域との協力体制については、具体的に決めておらず、今後の課題である。	グループホーム単独での訓練や、消防署の指導の下での法人と合同訓練等により有事に備えている。運営推進会議の中で、地域の協力を呼びかけ、区長から訓練に参加させていただく旨の申し出もある。夜間帯には母体法人職員の見守りや夜勤者により安全点検がなされている。備蓄も準備されており、一覧表として全職員が共有されることが望まれる。	法人では大規模訓練が予定されており、地域の方々も訓練に呼びかけていただきたい。熊本地震のよる影響がまだまだ続くなかではあるが、この経験を風化させないような取り組みを運営推進会議の中で検討いただくとよいと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や、人格を尊重した言葉掛けや、プライバシーに配慮、一人ひとりにあった対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。	入居者一人ひとりに応じた声掛け(呼称についても本人に尋ねている)や、入室時にはノックや声をかける等高齢者としての誇りや尊厳を損ねないよう対応し、接遇委員会の中での目標等も職員のケアに反映させている。日々マイク放送により言葉使いや利用者への尊厳あるケア等注意喚起されている。個人情報等を漏洩には十分な対応を取り、家族への情報提供にも注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握したり、会話や関わりを通し、思いに添い、納得して頂けるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、心身の状態を察知し本人の希望を大切に自分の自由な時間を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色合いや、バランスに配慮したおしゃれの支援を行っている。傷みが出やすい素材については、手洗いをし劣化を防いでいる。散髪は、地域の訪問散髪を利用し、ヘアスタイルを保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出や行事の際には、手作りの料理を作っている。その際に、利用者にお手伝いをしてもらいながら、一緒に作っている。それぞれの利用者の出来る事を考え、一緒に食事の準備をし、智の食事を楽しみ、片づけを行っている。	現在は2号館で調理したものであるが、本来はユニット毎の献立である。地産地消を基本にした食材を使用し、自発的に皮むきや野菜切等に関わる等入居者も出来る力を発揮されている。また、オープンな拵えのキッチンとともに旬を先取りした季節感溢れる料理は食思意欲を引き出し、入居者と職員との会話に繋げている。園庭での外食(ピザ・パン作り等)や、いきなり団子作り、子どもたちとの焼き芋大会等多様な食を企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように、栄養バランスを考えて調理をしている。また、その人に合った食事形態を考え提供している。嚥下状態が悪い方に対しては、トロミ剤の量から考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。	入居者のトイレの訴えに対して2名介助で対応し、昼夜を問わずトイレへ誘導する等基本的にはトイレでの排泄を支援している。坐位保持が難しい方にはオムツを日中も使用するケースもあるが、極力夜間のみオムツを使用する等排せつ用品を使いわけながら気持ち良い排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給(乳製品を含む)確実に摂取している。排泄や入浴時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午前中から行っている。以前は午後からだったが、ゆっくり入って頂くために改善を行った。希望があれば、毎日入浴してもらっている。	入浴時間を午後から午前に変更し、週回程度であるが希望に応じて毎日でも入浴が出来る。個浴でゆっくりとした入浴に拒否もないが、1号館は現在地域交流センターの広々として浴槽を使用されている。何よりも温泉であることが一番の楽しみでもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクリエーションを実施し、夜間は、ゆっくり寝て頂くようにしている。疲れているときは、自室にて休んでもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護職員により主治医への報告を行い、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや台所作業など行って頂いたり、創作レクのお好きな方には、一緒に行い、それぞれの役割や趣味活動の実施で活性化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祝い事や法事に行きたいと本人の強い希望があり、家族からは体調の不安定が見られたため、相談があった。地域の宴会所と相談し、宴会所の環境を整えてもらい、職員の付き添いにて参加することができた。	天気の良い日には日本庭園から眼下の町を望み、野菜の生育を見に外に出たり、母体のドックフィッシュの足湯の利用や、企画した外出(桜見学や天草までの遠出、サーカス見学等)等支援している。また、白寿の祝いには家族の不安軽減に職員が付き添う等機動力を発揮しながら外に出かけている。	超高齢化であっても全員での外出を可能とする職員の思いの深さに大いに評価したい。今後も家族にも外出を呼びかけ、今だから出来る家族との外出を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は居ません。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば電話をしたり、取り次いだり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが広すぎるのでアロマを炊いて、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。又、花や置物を置いています。	自然豊かな環境とともに玄関先の草花が四季の移ろいを醸し出している。広々とした共有空間では入居者と職員との会話が弾み、作品(お雛様)や行事の写真等訪れるものの目を楽しませてくれる。また、掃除や温湿度管理の徹底とともに、トイレや洗面台には職員の持ち寄る季節の草花等居心地よく過ごせる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地震で半壊により改修工事を行っているので、地域交流スペースで生活しているがソファや1号館で使用していた家具を持っていき、同じような配置をくふうして空間作りしている	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震で半壊により改修工事を行っているので、地域交流スペースで生活しているが、つい立てを使用してプライバシーに配慮している。	1号館は改修工事が待たれる等1・2号館の現在の環境に違いはあるが、入居に際し自宅での様子を聞き取る等自宅の環境に近い居室作りを行っている。自宅の住まいと自覚ができる物の持ち込みを依頼しており、タンスや仏壇・遺影等を持ち込み、毎日お茶をお供えされる入居者もおられる等、自宅の延長線上に居室を捉えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりが出来る事を把握し、それぞれの支援目標を設定し、自立に向けた行動計画を実施している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人 恵寿会		
事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/innindex.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームグリーンヒルみふねでは、ベテラン職員が多く、利用者の気持ちに寄り添い、親身になって考えることが出来る。本人の訴えや希望など、聞き漏らさずに、スタッフ全員に周知し、出来るだけ本人の意向に添ったことを実現している。そのバイタリティ溢れるパワーは素晴らしい。家族にも、日頃の様子を伝えリスクが伴うようなことでも、しっかりと伝えることが出来る。家族からの信頼もある。また、食事面では、日頃から、メニューや栄養面には力を入れており自慢の一つでもあります。特に、運営推進会議や誕生会での料理は、利用者、家族や行政、地域の方が写真に写していけるほどの腕前である。生け花や置物などを使うなど洒落た演出ができています。料亭のような雰囲気漂う空間が何ともいえない。そのような環境を活かし、自由で安心して快適なグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作りの基本として毎日の朝礼にて唱和している。また、勉強会などでは、毎回、スタッフに周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(どんどや、校区敬老会、木倉祭り、青少年育成会の手伝い)に参加し自治会に加入。組長として回覧配布、会議、区役に参加、連絡調整を担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御船町の各地区のサロン活動や仮設の支援への活動も、グループホームから参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動や利用者様の事例検討をパワーポイントにて分かりやすくし、見てもらっている。また、事故や苦情があったことも会議で報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故・苦情・感染症発生した際にも役場に報告し、助言を仰いでいる。また、経過も定期的に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落の恐れがある方に対しては、畳に寝て頂くなど身体拘束のないケアを実施している。法人、全職員にアンケートを取り、身体拘束についての知識がどこまであるのかを調査している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止・虐待防止委員会が主になり、言葉遣いなど事例を通して皆で学んでいる。また、身体にキズやアザなどあった場合には、きちんと原因を追究する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの社会福祉士にて、勉強会を実施している。質疑応答を詳しく教えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族への十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。また、リスクの同意書も頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置している。ご家族が来られたら、話しやすいように話して頂くような雰囲気にはしている。最近のご家族は、何事もはっきりと言って下さるので意見を聞く事ができる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やイベントの話し合いには参加して、職員の意見を聞き出来るだけ実施できるようにアドバイスをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。又、年度の終わりに、それぞれの職員に次年度に向けた目標や新しく取り組んでみたいことなどアンケートを取り、やりがいをを持って仕事に臨めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	御船町、又は他の研修会には、多くの職員に参加を促している。また、参加し、研修報告書を提出してもらい、他施設の取り組みを学び、良い刺激になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの上益城ブロック会議や、その他、認知症実践者研修や、アクティビティインストラクター当の研修を受け、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に要望を聞くことにより、自宅により近いような暮らしを続けて頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族にケアマネと事前に訪問し、困っていることを、不安、要望など十分に傾聴、安心して頂ける対応を行い信頼ある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にの希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め、検討し対応に努めた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していくなかでも、同じ生活者として心を寄せ合い、日常生活の様々なことを共に行うことで、関係性を深めていきたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、家族会、誕生会など様々な場面で、ご家族の参加を呼びかけ、担当職員からは手紙で、近況報告をし、ご面会時には、様子をお知らせしたり、自由に面会できるような雰囲気のグループホームであるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人の訪問がある。その関係を大切にしている。誕生会の時に家族や親戚、友人も案内し、関係を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何時でも相談して良いとお伝えしている。時々、「懐かしくて寄りました」と来られる方もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	勉強会やミーティングで、一人ひとりの過ごし方や様子など皆で検討している。その後、家族にも伝えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中で一人一人の生活歴や馴染の暮らし方を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向に添ったプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別にケース記録を記入しているが、利用者の言動の中で、注意すべき点があれば、申し送りノートに記載し、状態把握に努めている。又、状況の変化や報告事項などの情報を共有、観察し、必要時、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域住民として、運営推進会議の中で行政や、区長、民生委員さんと、防災について話し合ったり、地域の保育園、小学校との世代間交流を通して、グループホームの事を理解して頂いたり、消防避難訓練に隣保の方も参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベント(若い人たちが集まる場所)に参加している。若い人たちと触れ合ったりすることを大変喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、往診、他の専門病院が必要な時には、紹介状を発行して頂いたり、緊急時には、医師の指示にて救急搬送を行うなどを行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状況に少しでも変化がある場合は、看護職員が、主治医に報告し、指示を仰ぎ介護職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所機関が1か月と規定されており、安心して治療ができるよう情報交換を行い早期退院に向けて、主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業者で出来る事を家族に説明し方針を共有している。施設にて看取りを希望される利用者の場合は、急変時には家族へ連絡し相談の上、対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討している。また、勉強会では、急変時の対応の研修を行い知識や技術を全員で身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や、年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。しかし、まだ地域との協力体制については、具体的に決めておらず、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や、人格を尊重した言葉掛けや、プライバシーに配慮、一人ひとりにあった対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握したり、会話や関わりを通し、思いに添い、納得して頂けるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、心身の状態を察知し本人の希望を大切に自分の自由な時間を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色合いや、バランスに配慮したおしゃれの支援を行っている。傷みが出やすい素材については、手洗いをし劣化を防いでいる。散髪は、地域の訪問散髪を利用し、ヘアスタイルを保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出や行事の際には、手作りの料理を作っている。その際に、利用者にお手伝いをしてもらいながら、一緒に作っている。それぞれの利用者の出来る事を考え、一緒に食事の準備をし、智の食事を楽しみ、片づけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように、栄養バランスを考えて調理をしている。また、その人に合った食事形態を考え提供している。嚥下状態が悪い方に対しては、トロミ剤の量から考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給(乳製品を含む)確実に摂取している。排泄や入浴時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午前中から行っている。以前は午後からだったが、ゆっくり入って頂くために改善を行った。希望があれば、毎日入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクリエーションを実施し、夜間は、ゆっくり寝て頂くようにしている。疲れているときは、自室にて休んでもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護職員により主治医への報告を行い、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや台所作業など行って頂いたり、創作レクのお好きな方には、一緒に行い、それぞれの役割や趣味活動の実施で活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祝い事や法事に行きたいと本人の強い希望があり、家族からは体調の不安定が見られたため、相談があった。地域の宴会所と相談し、宴会所の環境を整えてもらい、職員の付き添いにて参加することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1人、お金の使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば電話をしたり、取り次いだり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、廊下など優しい色合いの壁掛けや、花や置物を置いてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園庭に椅子を置き、様々な景色を眺めながら、お茶を飲みながら、会話ができる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、ずっと使っていた家具を持って来てもらい、自宅と変わらない雰囲気の中で安心して暮らして頂きたいと思っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりが出来る事を把握し、それぞれの支援目標を設定し、自立に向けた行動計画を実施している。		